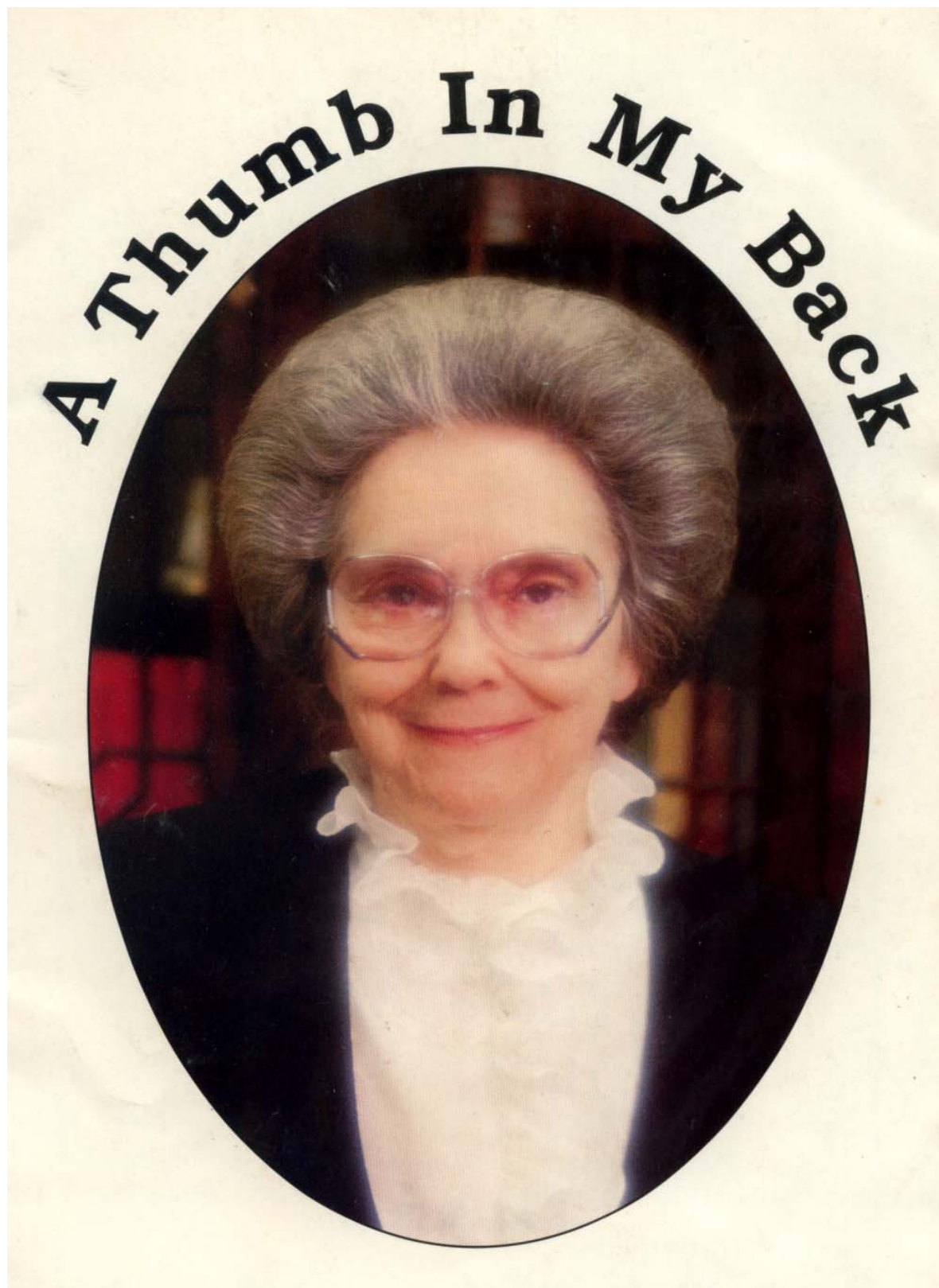


神に背中を押されて



B. R. ヒックス師による個人的な証し

A Thumb

In My Back

神に背中を押されて



Christ Gospel Churches Int'l., Inc.

P. O. Box 786

Jeffersonville, Indiana 47131-0786

すべての人の生涯は全知全能の神によって注意深く計画された一つの計画、二つの永遠の間の一区切りの期間です。神が一人の人を世に送られるとき、神はその人に才能と能力をお与えになります。それから神はその人のために用意された壁がん（物を置くために壁に造ったくぼみ）の中に置かれます。人が人生を歩いていくうちに、その人は、自分の壁のくぼみの中に一つの特別な天秤が置かれているのを見つけます。その天秤は、私たちが神に近づくため、そして私たちがイエス・キリストのように変えられるために必要な人生の喜びと苦しみの量を量るために用いられます。

多くの人々は、自分たちが陥った苦痛に満ちた境遇、あるいは喜ばしい状況でさえもその本当の意味を理解することなく人生を過ごして行きます。苦しみが来ると、人々は苦々しい思いで満たされるか、心を硬くするか、幻滅を感じるかして、神は不正で不忠実で、愛がないと非難し、あるいは神など存在しない、とさえ思います。それは神がその人たち一人ひとりを神との個人的に親しい関係に導くために量りだされた苦しみを受け入れることができないゆえです。あるいは、神が人々をご自身の方へと引き寄せたいという望みと愛を示すために、人々を祝福される場合もあるでしょう。どちらにしても、それは神が私たちをご自身の方へと近づけようとする神の慈しみと配慮によるのです。

私の人生における「一押し」が私を刺激し、力づくで押し、突き棒で駆り立てる神の慈しみの大きな親指であることを私が意識するようになるずっと前から、神は私を個人的に親しく取扱ってくださいました。その「一押し」は、私にとって痛みと、時には喜びをもって、死ぬべき人間にとって経験し、夢見ることができた以上の、神との、もっと親しい、栄光に満ちた、満足を与える、そして満ち溢れた関係へと、私を遂に導いていってくれたものでした。私が肉体的にも感情的にも個人的に経験した暗闇、失望、痛み——これらのすべてはイエス・キリストとの個人的に親しい関係と神に仕える生活への準備をさせてくれるものでした。しかし私は、人生における圧迫が私の背中に置かれた神の親指であることを理解するには、長年の間、あまりにも盲目でした。私はこの神の親指を常に背中に感じていましたが、神のみこころに従って歩み始めるまでは、それは何の形も姿もとることはありませんでした。神のみこころの中を歩むようになったとき、私は神が私の天秤に置いてくださった痛みなどの量も、どんなに良いものであり、どんなにすばらしいものであるかがわかったのです。なぜなら、それぞれの重荷が私を神に一層近づけてくれたからです。

—著者

神に背中を押されて

B. R. ヒックス師の人生からの個人的な証し

私の子供時代を振り返るとき、それはまるで昨日の出来事のように思われます。最初に私の人生の特別な壁に造られたくぼみの中の天秤は、素晴らしい喜びの側に傾いていました。私には非常に裕福な素晴らしい父親がありました。第一次世界大戦が終わり、私たちの国は平和の時期に入っていました。私たちにはケンタッキー州のワレン郡に美しい家がありました。クリスマスツリーや玩具やそして小さな女の子がほしがらるあらゆるものがありました。そして、それから突然、私の人生の天秤は苦しみの中で満たされました。苦しみは何年も増え続け、それはとどまることが無いように思われるほどになりました。

1920年代の有名な大恐慌で、私の父、ジョン・ウィリアム・リチャーズが破産したことを理解するには、私はあまりにも幼なすぎました。ただ私が知っていたのは、私たちが美しい家を手離してそこを後にするとき、私の両親の顔がやつれて悲しいものになっていたことです。その後、美しい新しい玩具を持つかわりに、私は広告から切り取った人の姿の人形を手にとりました。あるいは、私の見つけた割れた木の破片にぼろきれを着せ、お人形ごっこをしました。そして、割れたガラスの板を私の空想の中のきれいな家の中の玩具のお皿として使いました。

その後私が5才のとき、弟ビリーが生まれました。私の父は大恐慌の間、ほんの小さな農園を手放さずにおくのがやっとで、雇い人を雇えなかったので、私の母は父を助けるため畑について行かなければなりませんでした。私の姉は結核をわずらっていたため、私は5才でしたが、私の弟の子守と家の掃除をするために家に残されました。私は皿洗いをするためには椅子の上に立たなければなりませんでした。それでも7才になるまでには、簡単な料理をし、ビスケットを作ることができるようになっていました。当時、私は次のことがわかっていませんでした。それは貧乏が、神の目に見えない親指で私をお金のない生活に押しやり、その結果、私が何よりも、イエス・キリストを私の個人的に親しい救い主として知り、イエス様が私の人生に物質的なものを戻してくださる前に、私がイエス様と天国の富を求めるように真剣に努力するようになるためのものだった、ということです。代用品で穏やかな満足を得ることは、私が完全に神を喜ばせる前に学ばなければならなかった私のためのレッスンでした。そして神は地上の富を私の家族から剥ぎ取る